

令和5年度 上田市立 丸子北小学校 自己評価シート

学校教育目標		めざす子どもの姿（中期的目標）	
一、仲良く助け合う子	〇しっかりと考え、自分から動ける子ども		
	〇力を合わせて粘り強く追究する子ども		
	〇自分やまわりの人を大切にできる子ども		
	今年度の重点目標		
二、進んで学び、自分の考えが言える子	1	「学力向上」に向けて日々の授業を見返し、改善してきたか。	
	2	「自分自身と向き合い自分を成長させる時間」になるよう、心みがき清掃に取り組んできたか。	
三、最後までやり抜く子	3	「自ら進んであいさつできる」ことを目指し、工夫して取り組んできたか。	
	4	「お互いを認め合う学級づくり」をめざし、工夫してきたか。	

領域	対象	評価項目	評価の観点
学校教育	学習指導	基礎的な学力の定着	学力の向上をめざし、子どもたちが「わかった」「楽しい」を実感する授業を実施してきたか 家庭学習の習慣をつけるために、「15分×学年」を目安に、家庭と協力しながら発達段階に応じた課題の工夫をしているか
		生徒指導	より良い人間関係づくり 子どもたちが、安心して生活できるように、学級の人間関係に敏感になり児童の心に寄り添った支援をしてきたか
	地域との連携	学校からの情報発信	学校は、日頃の学校教育の理解や信頼を得るために、「学校便り・学年便り・ホームページ」等で、学校の様子を伝えているか
学校運営	安全安心対策	安全安心対策	学校は、毎日の下校指導や地域の「安全見守り隊」と連携して、事故防止や安全指導を進めているか
		研修	授業改善と児童理解
	職員	職員の綱紀粛正	「非遵行為防止」に努めているか
	支相談	子どもや保護者への教育相談	保護者や子どもからの相談に対して、関係職員や関連機関とも連携しながら、適切な対応をしているか

総合評価				
成果と課題	A	B	C	D
〇全校で「心みがき清掃」に取り組み、振り返りの時間を大切に位置付けることを継続したことで、自己を見つめながら主体的に取り組み姿が見られるようになってきました。清掃だけではなく様々な活動でも児童の自主性が伸びてきていると感じます。今後も、子どもたちの学びの姿を丁寧に見取り、認め、励ましていきたいと考えます。 〇「個別の指導計画研修」「Q-U研修と検査の活用」「外部講師による学びあい学習研修」などを通して、見通しをもって主体的に活動に取り組み児童の姿が多く見られるようになってきました。引き続き、個に寄り添いながら、全校で大切に取組んでいきたいと考えます。 〇全校で「居心地のよい学級づくり」に取り組んできたことで、お互いのよさを認め合い、支え合おうとする学級の雰囲気が高まってきています。今後も、子どもたちを真ん中に、保護者や地域と連携しながら、子どもたちのよさをさらに伸ばしていけるよう、努めていきます。		○		
成果と課題	A	B	C	D
学習課題の工夫をして、「学び合いの学習」や「Q-U」等の校内研修を実施したり、一人一公開授業を実施したりして授業改善に取り組んできました。		○		
清掃の「振り返りの時間」を位置付け、毎日自己を振り返ることで、自己と向き合う姿が多く見られるようになってきています。振り返りノートへの対応について職員研修を実施し、活動への共通意識を構築しています。		○		
各担任から意識して先に挨拶するなどの工夫したり、児童会でも校内を巡回してあいさつを交わす活動を実施したりして積極的なあいさつを交わす工夫をしてきました。		○		
「学校がとても楽しい」と答えた児童が95%に達しました。「Q-U研修」等、「学級づくり」の取り組みの成果が少しずつ表れてきていると思われます。	○			
改善策・向上策	今後も、児童の実態に合った課題を設定したり、ペアやグループ活動を工夫したりしながら、基礎・基本の力を確実に身に付けると共に、タブレットを有効に活用して、主体的対話的な学びを実現していきます。			
				振り返りノートの展示、週一回の放送等で個々の取り組みや振り返りの良さを全体に広めるとともに、職員研修などを通して指導に当たる際の共通理解を醸成し、全校の意識を高めていきたいと考えます。
				児童の評価では肯定的回答が88%、保護者は79%、職員は75%、となっている。このギャップを解消するために、豊かなあいさつの在り方について具体的な評価内容を定め、挨拶推進の取り組みを丁寧に行っていきます。
				校庭的でない回答をした4%の児童への対応を研究しながら、「Q-U研修」や「特別支援教育研修」などを行いながら「児童理解」を深め、お互いを認め合える学級づくりに努めていきたいと考えます。

成果と課題	A	B	C	D
学び合い学習を充実させていくために、外部講師として麻布教育研究所の村瀬公胤先生を招聘して職員の意識改革や、児童へのかかわりの具体について研究に取り組んできました。「勉強があまりわからない」「わからない」と答えた10%の児童への対応が課題です。		○		
「宿題を毎日きちんとしている」と回答した児童が、87%に上りました。「つむぐ」の活用と、保護者のサポートにより、家庭学習の習慣や質が向上してきています。自主学習に取り組む児童も増えました。	○			
お互いのよさを認め合える活動を大切に位置付けて取り組んできました。児童アンケートでは肯定的な回答の児童が87%に達しました。	○			
「褒める」「受け止める」を大切にしながら、日頃の声掛けや学習支援を行うなど、よりよい人間関係づくりができるよう心掛けてきました。		○		
「学年便り」や「学校便り」、「学校HP」など、定期的に発行・更新するよう心掛け、積極的に情報を発信することができました。また、メール配信を活用し、こまめで丁寧な情報発信に努めました。保護者の好評価が97%に達しました。	○			
児童の好評価が98%に達すると共に、D評価が0となり、保護者のAB評価は83%に留まっており、継続的に具体的な安全指導の重要性を感じます。	○			
麻布教育研究所長の村瀬先生を招聘して「学び合い」の校内研修を実施したり、清泉大学の片瀬拓弥先生を招聘して「Q-U」の活用研修を実施したりして、学級経営や授業の在り方についての研鑽をしてきました。		○		
職員会で短時間の研修実施する等してきましたが、職員評価の達成度が100%と上昇しました。児童へ向ける言葉等にさらなる配慮が必要だと考えられます。		○		
児童や保護者の話を丁寧に聴いたり、定期的に懇談や支援会議を開いたりするように心掛けてきました。	○			
改善策・向上策	児童一人ひとりの実態を丁寧に把握し、個に応じた支援や指導を行います。また、「一人一公開授業」により、お互いの授業を見合うなどして日頃の授業を見返したり、研修の機会を設けたりして授業改善に努め、教員の資質向上を図っていきます。			
				今後も、各学級・学年で児童の実態を丁寧に把握し、課題に合った内容の宿題を出したり、「つむぐの活用」について、保護者の声も聞きながら、全職員で共通意識をもち、積極的に活用したりしていきます。
				特に、アンケートで肯定的ではない回答をした5%の児童について心を寄せ、その子が安心していられる場所づくり、人間関係作りについて担任が工夫すると共に、全職員で情報共有見守っていく体制づくりに努め、家庭と連携しながら、楽しい学校生活を送れるよう丁寧に支援していきます。
				子どもたちの声に耳を傾け、日々の児童理解を丁寧に行い、「北小っ子タイム」や「Q-U」等も活用しながら、子どもたち一人ひとりに寄り添った支援が行えるよう、さらに努力します。
				メールの配信が丁寧で分かりやすかったとか、何かあると担任からの連絡を丁寧にいただいた等、家庭との連携について評価していただきました。今後も、子どもたちの頑張っている様子を、お便りや学校HPなどを使って積極的に家庭や地域へ発信していきたいと考えます。
				家庭や地域との連携を密にしながら、日々の安全指導や事故防止に努めていきます。また、不審者情報など、安全にかかわる内容については、今後も迅速に対応するよう努めます。
				今後も、村瀬先生のご指導を継続し、教師一人ひとりの力がさらに向上するよう、外部講師から学ぶ機会を設けるなどの校内研修を充実させたり、各種研修会へ積極的に参加したりしていきます。そして、日々の児童理解に加え、客観的結果や資料等も活用しながら児童理解を深め、学級経営や授業に活かしていきます。
				職員の同僚性や関係性を高めながら、非遵行為防止に向けて計画的に研修を積み重ね、事例や対応の具体について学びあい、引き続き全職員で取り組んでいきます。
				今後も、子どもたちや保護者の声にしっかりと耳を傾け、誠心誠意対応していきます。

○ 評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できなかった D・・・達成できなかった